

数理生物学会への参加と講演

2024年9月11日北海道大学で開催された日本数理生物学会に参加し、講演を行った。今回は「K-選択理論における最適生活史戦略理論」というタイトルで講演を行った。数理生物学はコロナを含めた感染症の数理モデルがプログラムの多くを占めていた。昨今は数理モデルではなくデータ解析が増えてきている印象がある。筆者のような、数理モデル一筋という研究者は減っていくのかも知れない。

(大泉 嶺 記)

第32回日独フォーラム

2024年10月29日（火）から2日間、衆議院第一議員会館国際会議室で、日独フォーラム第32回合同会議が開催された。日独フォーラムとは、1992年の宮沢・コール日独首脳会談により設立が合意され、翌年に発足した民間対話フォーラムで、毎年日独交互に東京とベルリンで開催されている。筆者は1日目の第1セッション「日独の政治経済情勢～人口問題にどう立ち向かうか～」において、ドイツとの比較を踏まえた日本の人口動向と施策に関する報告を行った。時間を超過するほどの質問があり、有益な議論が行われた。

(林 玲子 記)

第15回熊本県医療人育成総合会議

「18歳人口激減下の医療人育成」をテーマに、第15回熊本県医療人育成総合会議講演会が2024年11月4日（月）に、熊本県医師会館(熊本市)にて行われた。筆者の「人口減少社会における医療・介護人材—その動向と展望」、文部科学省俵幸嗣高等教育局医学教育課長の「人口減少社会下における医療人育成について」という特別講演に続いて、熊本における医師、看護師、薬剤師、リハビリテーション専門職、外国人介護福祉士の育成の現状と課題が報告され、続いて医療人を送り出す中学校・高等学校の進路指導の視点からの報告があった。最後に学生を交えた討論が行われた。

人口は減少しているとはいえ、熊本県は台湾 TSMC が誘致され、2023年では社会増加となっている。若者の人口減に伴い教育現場は人材獲得と質の高い教育が大きな課題となっているが、熊本県では各職種、中高から大学、専門学校を巻き込んだ医療人育成のネットワークがあり、今後の展開が期待される。

(林 玲子 記)

グローバルヘルス合同大会2024

第39回日本国際保健医療学会学術大会、第65回日本熱帯医学会大会、第1回台湾グローバルヘルス推進協会大会を合わせたグローバルヘルス合同大会2024が2024年11月16日（土）～17日（日）に沖縄県糸満市くくる糸満で開催された。それぞれの学会によるシンポジウムやワークショップ、口演・ポスター報告が行われると共に、沖縄科学技術大学院大学（OIST）の共催セミナーやミャンマー・メータオクリニックのシンシア・マウン院長を迎えた市民公開講座などが行われた。筆者は「アジアの少子化と生殖補助医療の課題」と題する口演を行うと共に、セッションの座長を行った。

今回は台湾グローバルヘルス推進協会大会との合同開催となり、国外の学会との合同開催は日本国